

まえがき

農林水産政策研究所では、令和元～3年度、プロジェクト研究「ICTや先端技術を活用した農村活性化、地域資源・環境の保全に関する研究」を実施した。都市に先駆けて高齢化や人口減少が進む農村において、ICT等を活用して定住条件の強化等を進める取組や持続可能なバイオエネルギーシステムを構築する取組、また、地域資源を観光コンテンツとして磨き上げ国内外の旅行者の増加等につなげる取組等が見られるが、このような取組を拡大させて農村の活性化につなげることは、今後一層重要となる。本研究では、効果的な取組の普及や持続可能な地域資源の活用に向けて、その課題等を明らかにすることを目的とした。

本資料は、このプロジェクト研究のうち、「滞在型交流による農山漁村地域の活性化に関する研究」の成果をとりまとめたものである。ビジネスとして滞在型交流に取り組む地域、いわゆる農泊地域を中心に調査分析や、旅行者の意向・行動や海外におけるアグリツーリズムの制度・取組の実態把握等を行ったが、令和2年度からは、新型コロナウイルス禍における農村地域の状況等についても、可能な範囲で情報収集を行い、その成果をとりまとめた。感染拡大防止のため行動制限等があり、十分調査できなかったところもあるが、3年間の研究成果として理解いただきたい。

一日も早く新型コロナウイルス感染が収束することを願いつつ、本資料が滞在型交流による農山漁村地域の活性化や持続的な農村振興策の検討に活用されれば幸いである。

令和4年3月

農林水産政策研究所
ICT 活性化プロジェクト農泊研究チーム